

初個展に数学的ビーズ編みの作品を並べている堀部和経さん(右)＝三重県鳥羽市、鳥羽大庄屋かどや



数学的ビーズ編みに注目

多治見の堀部さん、鳥羽市で初個展

数学的ビーズ編みを手がける元高校教師堀部和経さん(68)＝多治見市元町＝が25日まで、初個展を三重県鳥羽市の交流施設「鳥羽大庄屋かどや」で開いている。ビーズを規則正しく編み上げて作った多面体構造の35種類、60点余が並び、オブジェのような作品が注目を集めている。

堀部さんは数学の理論を基に、ビーズで構成した五角形、六角形、七角形をいくつも組み合わせて複雑な構造を編み上げている。今回はこの30年間に考案、制作した作品を国登録有形文化財の同施設に展示した。

9回ねじれたドーナツ状や、コンペイトーのような形、10個以上の穴が開いた構造など凹凸を自在に作り出した立体がずらり。直径2・2センチの木の玉を1224個並べた縦・横各約1メートル、高さ約50センチのUFOのような形や、直径6センチのビーズを5千個以上連ねた立体もある。

古い趣にみせられて会場を選んだ堀部さん。「五、六、七角形の配置を変化させるだけでいろんな形ができる」と見どころを話す。環状に編むには五角形と七角形の数をそろえるなどルールがあるといい「数学の法則の下に存在する美しさに触れてもらえたら」と語った。会場の模様をホームページで公開している。「堀部和経 かどや」で検索するとアクセスできる。